

もし、病害虫がいついてしまったら・・・

早期発見が大切。こまめに観察し、みつけたら広がる前に対処しましょう！

病害虫	灰色かび病	アブラムシ類	ヨトウムシ	ハダニ類
症状	葉の緑が黒くなったり、花が褐色になる。シミのような病斑。次第に腐り枯れる。4～11月に発生しやすい。	黒褐色のものもいるが、ほとんどは黄緑色。密集して新芽や蕾につく。汁を吸い、生育を阻害する。	春～秋に発生し、葉を食害する。日中は土の中や株元に隠れている。	葉裏につく。葉緑素が抜けた状態になり、葉に針先でつついたような白い小斑点ができる。
予防	風通しのよいところで管理する。終わった花がらや、枯れた葉、混みあった葉はこまめに摘み取る。水は株元にかける。			
対処	症状が出た葉はちぎって処分し、様子を見る。	セロハンテープで取りのぞく。早期発見が肝心で、冬のうちに駆除しておく、春以降の発生が少ない。	夜間見回って捕殺。	葉の裏側まで勢いよく水をかけ、洗い流す。


自然素材で害虫対策！「クスノキ木酢エキス」

★使い方と効果

- ・300～500倍に水で薄め、霧吹きで葉茎に散布 → 殺虫・忌避効果
- ・1000～2000倍に水で薄め、月1～2回水の代わりにまく → 土壌病害減

★つくりかた


クスノキの葉100gを細かくしたものを、1か月間、2Lの酢につけて抽出します



Q & A

ハンギングでも育ちますか？

育ちます。ハンギングはプランター以上に乾燥しやすいので、水切れに注意しましょう。土づくりの時に、バーミキュライトを2割ほど混ぜると水もちがアップします。日々の水やりで肥料分が流れやすいので、追肥は頻繁に。



葉が黄ばんでしまっています。枯れてしまわないか心配です。

肥料不足が考えられます。薄めた液肥を週1回程度、水やり代わりに午前中に与えて、様子をみましょう。また、北風が強くあつた霜が降りる場所等の場合は、低温や乾燥による影響も考えられます。花壇ではトンネルがけをすると対策になります。プランターの場合は、南向きで風の当たらない陽だまりの軒下へ移動しましょう。

発芽しましたが、葉が虫に食べられているようです。

種まき後、発芽した新芽が、青虫やバッタに葉を食べられてしまう事がよくあります。周りに青虫がいないか確認し、いたら捕殺しましょう。ネットで覆ったり、クスノキ木酢エキスを散布すると、予防になります。

サクラソウ (プリムラマラコイデス) の育て方

はじめに サクラソウの好きな環境を知ろう！

サクラソウは、「日当たり」と「風通し」が大好き！
日当たりが悪いと、花つきが悪くなります。
常緑性で、花の少ない冬の時期に長期間咲き続け、花色のバリエーションも豊富。ただし高温多湿には弱く、屋外での夏越しは難しいです。

植付適期と開花時期

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
開花時期									植付適期		

氷点下は△。霜の当たる場所は避けて。
朝晩が涼しくなった頃が植付適期♪

STEP1 土づくりをしよう！

育て方に合わせた土づくり

プランター

- 土がこぼれないよう、鉢底石を敷きます。
排水ネットに入れて使うと土と混ざらず再利用しやすい！
- 用土を入れて、混ぜます。

《用土の配合比率と効果》

赤玉土(小粒) 6	腐葉土 4
-----------	-------

花が増える
リン酸を含む 緩効性肥料 少々

水はけと適度な水もちを兼ね備えた、バランスのよい用土。
微生物の力で、土がふかふかに。通気性もアップ。

※例として、20Lのプランターの場合、赤玉土(小粒)12L・腐葉土は8Lになります。
※市販の草花用培養土でもOK!そのまま使えます。
※緩効性肥料は、袋に記載の量を守りましょう。

花壇・地植え



- ① 小石や古い根や雑草を、丁寧に取り除きます。
- ② 土をひっくり返すイメージで、30cm程度の深さまで耕します。
- ③ 苦土石灰を混ぜ込み、1週間寝かせます。
- ④ 腐葉土、リン酸を含む緩効性肥料を混ぜ込み、さらに1週間寝かせます。

「よい土」のチェックポイント

- シャベルが楽にサクッと土に入る
- 雨が降ってもサッと水がはける
- 土そのものがある程度温度を保てる

★配合用土の効果と量

はいごうようど こうか りょう

日本の土壌は酸性寄り。中和のため混ぜる。

ふうようど 腐葉土 100~200g/m² 20~30L/m²

つうきせい 通気性UP。土がふかふかに。

くどせっかい 苦土石灰

きぞん 既存の土

リン酸を含む緩効性肥料 (袋の規定量)

はな 花が増える

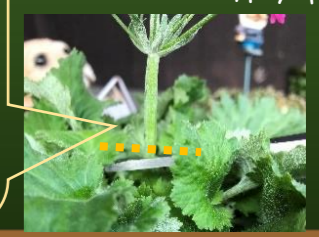
STEP4 サクラソウを長く楽しもう!

長くたくさん咲かせるためのお手入れ① 「花がらつみ」

花が8割ほど咲き終わった花茎は、花茎ごと切り取り、下から伸びてくる花茎や蕾を育てましょう。

★摘み取り方

そのままにしておくと、種をつくることに栄養を取られてしまう!



花茎ごと 剪定バサミで カット!

長くたくさん咲かせるためのお手入れ② 「追肥」

開花期間中は、薄めた液体肥料を1週間~10日に1回程度与えると、花つきがアップします。

※液肥は即効性があるぶん持続性はありません。まとめてたくさんあげるのは×。肥料焼けをして枯れてしまいます。

長くたくさん咲かせるためのお手入れ③ 「水やり」

引き続き乾燥には注意しましょう。



葉や茎がしわしわになっていたら危険信号

STEP2 苗を植えよう!

植付手順

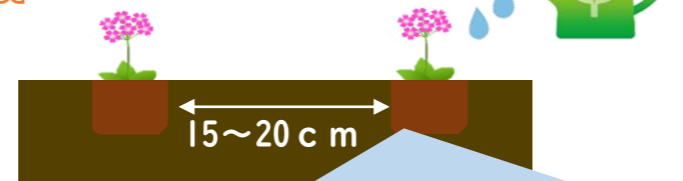
- ① ポットから優しくぬきとり、絡みあった根は優しくほぐす。(ポットのお尻を少し押してあげると◎)
- ② 植穴を掘り植付ける。
- ③ 土と根が密着するように土を軽く押さえる。
- ④ 植えて2週間は、土が乾かないよう毎日水やりを。



★うまく植えるコツ

植穴の深さはシャベルの半分ぐらいが目安!

植付間隔



植穴に水をたっぷり入れてから植えると、株が馴染みやすい

STEP3 サクラソウの生長をサポートしよう!

水やりについて

根が張るまで

植付け後約2週間は、乾燥させないように。

根が張ったら

プランターの場合は、土の表面が乾いたらたっぷり。地植えは、基本的にはお天気任せでOK。葉がしおれていたらあげましょう。

★水やりのポイント

- 必ず午前中に! 午後には水をあげると、土が凍ってしまいます。
- 鉢の下からあふれるくらい、たっぷり優しくあげましょう。
- 葉にかけないよう注意。
- 土の色が白っぽくなったら、水切れのサイン!

応用編 来年も楽しむ方法

サクラソウ(プリムラマラコイデス)は、日本の高温多湿の夏を屋外で越すことができません。花が終わったあとにタネをとり育苗しておくと、来年も楽しむことができます。

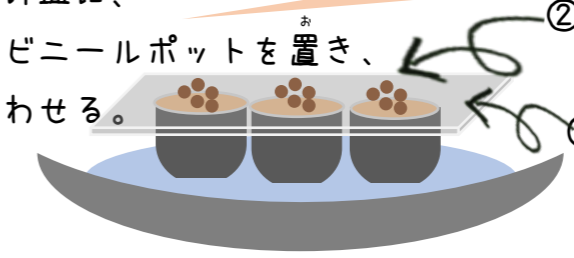
「タネ取り」 熟したタネを採取することが大切。未熟なものはうまく発芽できません。

- ① 4月頃、終わった花を放置してタネをつくらせる。
- ② タネをとる。
- ③ よく乾燥させる。
- ④ 封筒などに入れ、涼しくて日の当たらない、湿気の少ない場所で保管する。

花がらの奥に黒いタネが見えたら、タネ取りのサイン! お茶パックなどの小袋を花がらに被せ、すぐ下の茎をカットすると、こぼさず取れます

「タネまき」

- ① 暑さの落ち着いた10月上旬頃、水を張った受け皿に、用土を入れたビニールポットを置き、底から水を吸わせる。
 - ② タネは5~6粒/ポット まく。土はかぶせない。種は重ねない。
 - ③ 新聞紙1枚で覆い、土の乾燥を防ぐ。
- ※2枚以上は×。光が弱くなり発芽不良になる。



本葉が6~7枚に育ったら、プランターや花壇に定植できます!